



海防流傳記

九

^ 13
3299
9



13
3299
9

見島縣
原回

清津流保軍精記卷之九

本傳流保軍精記卷之九

并依世常力之役無我之事

余儀榮

扱も依世常力二時一城と云ふらん

とせしむるもいふに
不々々々の兵士と云ふ
ありいなり目も

大正十年八月廿九
本大學出版部

陸ちか〜も〜
あつふくかお〜**幕**〜
ゆゑのり〜
秋あき月つき相あひ尾お止と〜
〜又また陸ちか〜
ち〜
〜
秋あき月つき相あひ尾お止と〜
か我われが〜

〜陸ちか〜
〜
支し度どと〜
陸ちか〜
の〜
〜
〜
〜
〜
〜

はらへりてくせえはばらんといふ
とあらんが席をほひかへし人
若くといふめいりて葉の如く
こら歌城の由きく海をいし葉
あまは心ゆてんはあまの歌長付
中しあけんももあまがく
ての葉とあまの葉の葉
是れ小葉の葉と葉と葉と葉と

はらへりてくせえはばらんといふ
とあらんが席をほひかへし人
若くといふめいりて葉の如く
こら歌城の由きく海をいし葉
あまは心ゆてんはあまの歌長付
中しあけんももあまがく
ての葉とあまの葉の葉
是れ小葉の葉と葉と葉と葉と

うんとせし加はる比来り宮より
く彼ら宗不意にえぬか人様も
保くいし一老くえいこのふさふさ
有ぬらぬと將乞と一跡くして春
あはのもしもさるまじくとも
くもいしふ人今く遠く我を人
禁く陣ぐるもして数々の兵とえん
て一軍とほいといはくわ

かると四叩もゆり我等の士ゆくと
美とまきくくくくくくくくくく
ざりせし我がまもるあつとつと
ゆかるとあふゆとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつと
綴書と係し一生の病とくくく
頂ねをりらほくぬらるるの涙もく

とくもせら十倍とらうぞ我軍
あつしり大守の命とらふひら
と物持ちの指揮とれらうれが
我がはらありいそぎうへ軍
あつしり一と席とらうぞ
徳ももる理とらうぞ一と
はらこのあつしり軍
く作せりかともいふんとせ

くは津敵日系女とらうぞ
いそく軍師の懐とらうぞ
まがゆと津家護氏の印
一とくはらとらうぞ
いそく我軍の仕業とらうぞ
ともえと忠成の宮士とらうぞ
あらうと出合とらうぞ
らとらうぞと國の宮とらうぞ

うらうらとさきらるるしきまかぶる神の
音とてむむせしはこころの月をほく
のひ又今く遠くをたねおとせせむと
しほむとまがし我のまはけ
あひは後の功とまらるる涙のあま
しきんは國と海はしりぬた徳の
ころとスミルらうらうらとあまの
ほくまらまらしあふふもぞうい

まのあら軍所の仁ととりし
まのあら我のまらまらと
くまらし後とほくし
とまらしこころの月をほく
えまらしけし我のまらまらと
あまのまらまらしとあとし
しきまかぶる神の音とてむむせし
はこころの月をほく

東の解しそ病のそく或蔵のハヤ
かゝるふらぶささか〜
せし〜と母と〜

清津流馬軍精紀巻之九紙

地安 伍長式下 拾書
山 野 士 族

倅 魚 原

